

『普通話三千常用詞表』と『水滸』 多音節形容詞 2

中 村 浩 一

On Common Words of Modern Chinese in “*Shuihu*” Adjective of Many Syllables 2

NAKAMURA Koichi

はじめに

教室で中国語を教えていると、教科書に出てくる普通の言葉について、この言葉はいつ現れたのだろうか、どのような意味の変遷があったのだろうかというような疑問を持つことがある。しかし、この問題を解決するには多くの研究を必要とする。

本稿ではその研究のごく小さな一歩として、現代中国語に常用される多音節形容詞の『水滸』における意味、用法を検討したい。

現代中国語の常用語についてはいろいろ検討する必要はあるが、本稿ではとりあえず『普通話三千常用詞表』を用いたい。また、現代語の資料としては『現代漢語詞典』（『現漢』と略する）を用いる。

多音節語をとりあげたのは単音節語に比べて変化が大きいのではないかと思われること、語の認定が単音節語に比べて比較的容易であると思われること等からである。

『普通話三千常用詞表』にあげてある多音節形容詞のなかで、そのなかのいくつかは語、もしくは形容詞と見なせないものがあるので、これらは対象から除く。『普通話三千常用詞表』では形容詞を1～7の項目に分けてあるが、本稿では前号の『多音節形容詞1』でとりあげた1、2項目に続き、以下の5項目を取り上げる。

3. 人の感覚器官によって感じる温度、味、香り等
4. 人の容貌を形容するもの
5. 人の品性や行為を形容するもの
6. 人の感情や思想を形容するもの
7. 社会状況を形容するもの

本稿でとりあげる多音節形容詞は以下の3項に分けることができる。

A. 『現漢』と異なるもの

『水滸』における意味範囲と『現代漢語詞典』にあげる意味範囲がまったく異なるか、一部

が異なるもの。

B. 『現漢』と同じもの

『水滸』における意味範囲が『現代漢語詞典』のあげる意味範囲に含まれるもの。

C. 『水滸』にないもの

『現代漢語詞典』には採録されているが、『水滸』にはないもの。

テキストは鄭振鐸校訂『水滸全傳』を用いる。

3. 人の感覚器官によって感じる温度、味、香り等

A. 『現漢』と異なるもの

1. 好聽

『現漢』には(1)「(聞いて)心地よい」(2)「(言葉で)満足させる」という意味があげられている。『水滸』では「(聞かれて)体裁がいい」が否定詞を伴い、「(聞かれると)体裁が悪い」という意味で用いられている。用例は次の1例のみ。

那時蔡京、蔡攸耳朵的頗覺不好聽，父子商議，若將王慶性命結果，此事愈真，醜聲一發播傳。
(102・1577「102回1577頁、以下同じ」)

2. 響亮

『現漢』には「(音が)大きい」という意味があげられている。『水滸』にはそのような意味での用法は見られない。『水滸』には形容詞の用法はなく、次のように名詞として用いられている。

(1) 大きな音

全羽見瓊英手起，也將手中接的石子應手飛去。只聽的一聲響亮，正打中瓊英飛來的石子。(98・1547)

那邊馬靈手起，這邊公孫勝把劍一指，猛可的霹靂也似一聲響亮，只見紅光罩滿，公孫勝滿劍都是火焰。(99・1552)

(2) 変わったこと

吳學究道：兄長休如此説。只依小生一言，今後早晚祝家莊上但有些響亮，你的莊上切不可令人來救護。(50・824)

3. 辛苦

『現漢』には(1)「(心や体が)苦しい」(2)(交際用語で)「ご苦労様、お願いします」(動詞)という意味があげられている。『水滸』では(1)の意味のほか「苦しさ、辛さ」という名詞の用法が見られる。『水滸』には「ご苦労様、お願いします」という交際用語としての用法は見られ

ない。

(1) (心や体が) 苦しい

到的中書府，直至廳前，齊齊都拜翻在地下告罪。梁中書道：你們路上辛苦，多虧了你衆人。

(17・247)

天色朦朦朧朧，尚未明亮。武松一夜辛苦，身體困倦，棒瘡發了又疼，那里熬得過。(31・478)

燕順道：昨日孩兒們走得辛苦了，今日歇他一日，明日早下山去也未遲。(34・531)

(2) 苦しさ、辛さ

太尉說道：我是朝廷中貴官，如何教俺走得山路，喫了這般辛苦，爭些兒送了性命！(1・7)

今喚你等兩箇，休辭辛苦，與我將帶本管土兵人等，一箇出西門，一箇出東門，分投巡捕。(13・195)

自鄆城縣結義，跟着晁天王上梁山泊，受了許多年辛苦，不曾快樂。(115・1732)

B. 『現漢』と同じもの

1. 疼痛 (痛い)

盧俊義道：小人今日受刑，杖瘡疼痛，容在明日上路！(62・1052)

戴宗答道：肌膚憔悴，終日叫喚，疼痛不止，性命早晚難保。(65・1113)

唐斌那枝箭，可可地射着一個軍卒右股，但射的股肉疼痛，却似無箭鏃的。(94・1509)

2. 心慌 (慌てている)

魯達心慌搶路，正不知投那里去的是。(3・53)

如今聽得青州、凌州兩路救兵到了，十分心慌。(68・1160)

項充、李袞心慌起來，只要奪路回陣，百般地沒尋歸路處。(60・1003)

C. 『水滸』にないもの

安靜 (静かである) 惡心 (吐き気がする) 發燒 (熱がある) 好聞 (いい臭いである) 艱苦 (苦しい) 恐慌 (驚きあわてる) 涼快 (涼しい) 難喫 (おいしくない) 難聽 (聞いてよくない) 難聞 (いやな臭いである) 暖和 (暖かい) 疲乏 (疲れている) 輕鬆 (軽やかである) 甜蜜 (甘い) 頭疼 (頭が痛い)

4. 人の容貌を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 好看

『現漢』には (1)「美しい」(2)「体面がいい、顔が立つ」(3) (「要人的好看」として) 耐え難いようにする」という意味があげられている。『水滸』では (1) (2) のほか、「体裁がいい」という意味で用いられている。『水滸』には (3) の用法は見られない。

(1) きれいだ

那時三面青山，景物非常，畫船酒館，水閣涼亭，其實好看。(114・1715)

(2) 体面がいい、顔が立つ

趙員外道：若是留提轄在此，誠恐有些山高水低，教提轄怨恨；若不留提轄來，許多面皮都不好看。(3・62)

林沖道：原來是本官高太尉衙內，不認得荆婦，時間無禮。林沖本待要痛打那厮一頓，太尉面上須不好看。(7・114)

只是柴進面上却不好看，忘了日前之恩，如今也顧他不得。(11・168)

(3) 体裁がいい

今得他這十兩銀子，且將去賭一賭。倘或贏得幾貫錢來，請他一請也好看。(38・601)

王進笑道：恐衝撞了令郎時，須不好看。太公道：這個不妨。若是打折了手脚，也是他自作自受。(2・24)

既然令郎肯學時，小人一力奉教。只是令郎學的都是花棒，只好看，上陣無用。小人從新點撥他。(2・25)

大郎可把索來綁縛我三個出去請賞，免得負累了你不好看。(3・43)

B. 『現漢』と同じもの

1. 醜陋 (醜い)

誰想郡主嫌他醜陋，懷恨而亡。因此不得重用，只做得個兵馬保義使。(63・1078)

婆子便道：將軍在宋先鋒部下，又恁般奢遮，如不棄醜陋，情願把小女配與將軍。(93・1500)

2. 美麗 (きれいだ)

這李巧奴生的十分美麗，安道全以此眷顧他。(65・1110)

3. 年輕（若い）

石秀見那婦人出來，慌忙向前施禮道：嫂嫂請坐。石秀便拜。那婦人道：奴家年輕，如何敢受禮！（44・723）

C. 『水滸』にないもの

漂亮（きれいである）難看（みにくい）殘廢（かたわである）

5. 人の品性や行為を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 出色

『現漢』には（1）「抜きん出ている」という意味があげられているが、『水滸』ではこのほかに「忠義立てをする、骨をおる」という意味で用いられている。

（1）抜きん出ている

生的身長九尺，腰大八圍，頗知韜略，膂力過人。學得一身出色的好武藝，慣使兩口鎖鐵劍。
（94・1513）

便問：李大郎是院長親戚麼？范全道：是在下表弟。那女子道：出色的好拳脚！（104・1595）

（2）忠義立てをする、骨をおる、

花榮豎起弓，大喝道：你們軍士們不知！冤各有頭，債各有主。劉高差你來，休要替他出色。
（32・519）

今日先教你衆人看花知寨弓箭，然後你那廝們要替劉高出色，不怕的入來。看我先射大門上左邊門神的骨朵頭。（32・519）

2. 粗心

『現漢』には「粗忽である」という意味があげられているが、『水滸』では「勇敢である」という意味で用いられている。

吳用道：小生憑三寸不爛之舌，盡一點忠義之心，捨死忘生，直往北京說盧俊義上山，如探囊取物，手到拈來。只是少一個粗心大膽的伴當，和我同去。（61・1021）

3. 大膽

『現漢』には「大胆である」という意味があげられているが、『水滸』ではこのほかに「けしからん」、「あつかましい」という意味で用いられている。

(1) 大胆である

那老兒直拖魯達到僻靜處，說道：恩人，你好大膽！見今明明地張掛榜文，出一千貫賞錢捉你，你緣何却去看榜？（3・59）

岸上那夥人又叫道：你是那個梢公，直恁大膽不搖擺來？那梢公冷笑應道：老爺叫做張梢公，你不要咬我鳥！（37・584）

(2) けしからん

史進喝道：汝等殺人放火，打家劫捨，犯着迷天大罪，都是該死的人。你也須有耳朵，好大膽，直來太歲頭上動土！（2・29）

當下把王慶大罵道：大膽的奴才！你是箇囚徒，本該差你挑水搬石，或鎖禁在大鏈子上。（103・1586）

(3) あつかましい（一種の挨拶用語で失礼をわびる）

兩個坐下，史進道：小人大膽，敢問官人高姓大名？那人道：灑家是經略府提轄，姓魯，諱個達字。（3・46）

柴進對押解兩個公人道：小可大膽，相煩二位下顧，權把林教頭枷開了。明日牢城營內但有事務，都在小可身上。（9・141）

第三日早飯後，王婆只張武大出去了，便走過後頭來叫道：娘子，老身大膽。那婦人從樓上下來道：奴却待來也。（24・375）

4. 大意

『現漢』には「粗忽である」という意味があげられているが、『水滸』では「考え、意図」という意味で用いられている。

宋江大意只要盧俊義建功，乘此機會，教他爲山寨之主，不負晁蓋遺言。（68・1152）

如今宋江大意，只要賺這匹千里馬，實無心講和。若還與了他，必然翻變。（68・1160）

今更赦宥罪犯，引入京城，必成後患。欲待回奏，玉音已出。且看大意何如。（75・1254）

5. 和氣

『現漢』には「（態度が）穏やかである」という意味があげられているが、『水滸』ではこのほかに「穏やかさ」という名詞の用法も見られる。

(1) 穏やかである

那滄州府裏押番、虞候、門子、承局、節級、牢子，都送了些人情，又見朱全和氣，因此上都歡喜他。（51・844）

張幹辦、李虞候道：放着我兩箇跟着太尉，定不致差遲。太守，你只管教小心和氣，須壞了朝廷綱紀。(75・1254)

(2) 穩やかさ

吳用道：王頭領待人接物，一團和氣，如何心地倒恁窄狹？(19・280)

當日大吹大擂飲酒，一團和氣。(44・717)

那叔夜道：論某愚意，招安一事最好。只是一件：太尉到那里須是陪些和氣，用甜言美語撫恤他衆人。(75・1254)

6. 利害

『現漢』には(1)「(程度が)すごい」(2)「きつい、厳しい」という意味があげられているが、『水滸』では(2)の意味のほか、「ひどい」「災い」「困難」「責任」の意味で用いられている。『水滸』には(1)の用法は見られない。

(1) きつい、厳しい

未及三個月，他家大娘子好生利害，將奴趕打出來，不容完聚。(3・48)

武松問道：他們衆人如何不隨着你兩個上山？獵戶道：便是那畜生利害，他們如何敢上來！(23・348)

鄆哥道：你老大一個人，原來沒些見識！那王婆老狗，恁麼利害怕人，你如何出得他手！(25・394)

那張三上廳來替他稟道：相公不與他行移拿人時，這閻婆上司去告狀，倒是利害。(22・328)

(2) ひどい

但是經傳一代天師，親手便添一道封皮，使其子子孫孫不得妄開。走了魔君，非常利害。今經八九代祖師，誓不敢開。鎖用銅汁灌鑄，誰知里面的事。(1・8)

宋江道：你便尋我過失，也不計利害，也不到的該死。那人怒道：你說不該死，我要結果你也不難，…(38・597)

此人到江州，必被盤詰。問出實情，却是利害。(40・640)

(3) 災い

真人三回五次稟說：此殿開不得，恐惹利害，有傷于人。(1・8)

智深道：俺是過往僧人，討頓飯喫，有甚利害？老和尚道：我們三日不曾有飯落肚，那里討飯與你喫。(6・95)

朱貴笑道：這封鳥書打甚麼不緊！休說拆開了太師府書札，便有利害，俺這里兀自要和大宋皇帝

做箇對頭的！（39・628）

（4）困難

何九叔道：是這些小事，有甚利害，如何敢受銀兩。西門慶道：九叔不受時，便是推却。（25・401）

（5）責任

兩個公人道：這裡又没人看見，我們擔些利害，且與你除了這枷，快活喫兩碗酒。（27・427）

7. 隨便

『現漢』には（1）「都合のいいようにする」（動詞）（2）「（範囲や数にとらわれず）自由である」（3）「（勝手に）とらわれない」（4）「～にかかわらず」（接続詞）という意味があげられているが、『水滸』にはこのような用法はなく、次のように「ただちに」（副詞）という意味で用いられている。

梁中書道：家書隨便修下，誰人去走一遭？（63・1077）

8. 小心

『現漢』には（1）「気をつける」（動詞）（2）「注意深い」という意味があげられているが、『水滸』ではこのほかに「誠実である」「おとなしい」という意味で用いられている。

（1）気をつける

教甲仗庫隨行官吏，取應用軍器給與，就叫牽我的戰馬，借與楊志騎。小心在意，休覷得等閑。（13・190）

太公道：這事不用你憂心，你自和兄弟宋清在路小心。若到了彼處，那里使箇得托的人，寄封信來。（22・331）

宋江、宋清却分付大小莊客：小心看家，早晚殷勤伏侍太公，休教飲食有缺。（22・332）

（2）注意深い

朱全告道：小人自不小心，路上被雷橫走了，在逃無獲，情願甘罪無辭。（51・843）

朱全稟道：“小人怎敢故放了雷橫？只是一時間不小心，被他走了。（51・844）

（3）誠実である

智深聽了他這篇話，又見他如此小心，便道：叵耐幾個老僧戲弄灑家！（6・97）

武松見他如此小心，慌忙放起婦人來，便問：我看你夫妻兩個也不是等閑的人，願求姓名。（27・

429)

李逵懼怕羅真人法術，十分小心扶侍公孫勝，那里敢使性。(54・901)

(4) おとなしい

兩個公人懷着鬼胎，各自要保性命，只得小心隨順着行。(9・136)

那兩箇公人知道武松是箇好漢，一路只是小心去伏侍他，不敢輕慢他些箇。(27・426)

古人道：不怕官，只怕管。在人矮檐下，怎敢不低頭。只是小心便好。(28・438)

9. 英勇

『現漢』には「拔きんでて勇敢である」という意味があげられているが、『水滸』では「武勇に優れている」という意味で用いられている。

朱武問其緣故，小嘍羅備說交鋒一節，怎當史進英勇。(2・30)

再說劉知寨見軍士一箇箇都散回寨裏來說道：花知寨十分英勇了得，誰敢去近前當他弓箭！
(32・520)

楊志便道：青州城池堅固，人馬強壯，又有呼延灼那廝英勇。不是俺自滅威風，若要攻打青州時，只除非依我一言，指日可得。(57・964)

這人十分英勇。若先對付了宋江，他若得知，必變了事，到惹出一場不好。(120・1807)

B. 『現漢』と同じもの

1. 聰明 (賢い)

瓊英從小聰明，百伶百俐。料道在此不能脫生，又舉目無親。(98・1537)

張都監指着玉蘭，對武松道：此女頗有些聰明伶俐，善知音律，極能針指。(30・462)

盲聾瘡癩家豪富，智慧聰明却受貧。年月日時該載定，算來由命不由人。(32・513)

2. 糊塗

『現漢』には (1)「ぼおーつとしてわからない」(2)「混乱している」(3)「ぼんやりしている、はっきりしない」(方言) という意味があげられているが、『水滸』では (3) の意味で用いられている。用例は次の1例のみ。

有詩爲證：蕊笈瓊書定有無，天門開闔亦糊塗。滑稽誰造豐亨論？至理昭昭敢厚誣。(71・1195)

3. 急躁 (いらだつ)

那婆惜假睡着，只不應。宋江又搖道：你不要急躁，我自明日與你陪話。婆惜道：老娘正睡哩，是誰攪我？(21・315)

4. 謹慎（慎む）

吾今班師還國，汝宜謹慎自守，休得故犯！天兵再至，決無輕恕！”（88・1461）

妻子安氏，頗是謹慎，當下葉清報知仇家親族，一面申告官府捕捉強人，一面埋葬家主屍首。
（98・1537）

宋江教戴宗傳令水軍頭領李俊等，將糧食船隻，須謹慎提防，陸續運到軍前接濟。（107・1617）

5. 可惡（憎たらしい）

瓊英想道：這廝可惡！觀箇破綻，只一戟，刺中王英左腿。（98・1542）

叵耐緇流之輩，專爲狗彘之行，辱莫前修，遺臭後世，庸深可惡哉！（45・731）

忠義立身之本，奸邪壞國之端。狼心狗行濫居官，致使英雄扼腕。奪虎機謀可惡，劫牢計策堪觀。
（49・805）

6. 可憐

『現漢』には（1）「かわいそうである」（2）「かわいそうに思う」（動詞）（3）「（数量や質が取り上げられないほど）少ない」という意味があげられている。『水滸』では（1）（2）の意味で用いられ、（3）の用法はない。

（1）かわいそうである

智深趕下橋去，把崔道成後身一禪杖。可憐兩個強徒，化作南柯一夢。（6・100）

可憐悍勇英雄，方信寡不敵衆，兩箇當下儘被捉了。（63・1069）

有詩爲證：從來男女不同筵，賣俏迎奸最可憐。不獨文君奔司馬，西門慶亦偶金蓮。（24・378）

（2）かわいそうに思う

不是我口淺，量你是箇遭死的軍人，相公可憐，抬舉你做箇提轄，比得草芥子大小的官職，直得恁地逞能。（16・232）

且說楊志押到死囚牢里，衆多押牢禁子節級，見說楊志殺死沒毛大虫牛二，都可憐他是箇好男子，不來問他要錢，又好生看覷他。（12・181）

何濤道：你們閑常時都在這房裏撰錢使用，如今有此一事難捉，都不做聲。你衆人也可憐我臉上刺的字樣！（17・249）

7. 可惜（惜しい）

知州又叫部署來分付道：這般一箇漢子，俊俏後生，可惜了。你去與他分了這撲。（74・1246）

那漢又跟在背後道：好口寶刀，可惜不遇識者！（7・118）

那小廝囉把水直潑到宋江臉上。宋江嘆口氣道：可惜宋江死在這里！（32・503）

8. 可笑 (おかしい)

這武大郎身不滿五尺，面目生得猙獰，頭腦可笑，清河縣人見他生得短矮，起他一個諱名，叫做“三寸丁谷樹皮。”(24・355)

9. 老實

『現漢』には(1)「誠実である」(2)「おとなしい」(3)「頭が悪い」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の意味で用いられている。

宋江道：你也須知我是老實的人，不會說謊。(21・317)

武大道：我的兄弟不是這等人，從來老實。休要高傲聲，乞鄰舍家笑話。(24・362)

若是個志誠老實的人，可以容他在家出入，也教孩兒們學些好。(2・16)

10. 伶俐 (賢い)

那婦人推開酒盞，一直跑下樓來，走到半胡梯上，發話道：你既是聰明伶俐，恰不道長嫂爲母！(24・365)

張都監指着玉蘭，對武松道：此女頗有些聰明伶俐，善知音律，極能針指。(30・462)

11. 勉強

『現漢』には(1)「力不足であるががんばってやる状態」(2)「いやいやながら(やる)」(3)「無理強いする」(動詞)(4)「(根拠が不足して)無理がある」(5)「まにあわせ、どうにか」という意味があげられているが、『水滸』では(2)の意味で用いられている。

宋江聽了那婆娘說這幾句，心裏自有五分不自在。被這婆子一扯，勉強只得上樓去。(21・308)

挨到午牌時分，被老婆催他出去贖膏藥。王慶勉強擺到府衙前，與慣醫跌打損傷，朝北開鋪子賣膏藥的錢老兒，買了兩箇膏藥，貼在肋上。(102・1574)

舊年因田虎侵奪壺關，要他降順。唐斌本意不肯。後見勢孤，勉強降順。却只在本山住扎，爲壺關犄角，以備南兵。(94・1509)

12. 能幹 (有能である)

花榮聽罷大驚，連忙寫一封書，差兩個能幹親隨人，去劉知寨處取。(32・518)

梁中書因見他兩個能幹，就留在留守司勾當。(62・1051)

這箇便是梁山泊風流子弟，能幹機密的頭領，浪子燕青。(76・1273)

13. 懦弱 (臆病である)

陳達道：兄弟好懦弱！一個村坊過去不得，怎地敢抵敵官軍？(2・28)

武松嘆了一口氣，坐在席子上，自言自語，口裏說道：我哥哥生時懦弱，死了却有甚分明！(26・

409)

童貫聽了大怒，罵道：都似你這等畏懼懦弱匹夫，畏刀避劍，貪生怕死，誤了國家大事，以致養成賊勢。(76・1265)

14. 親愛（親しい）

詩曰：親愛無過弟與兄，便從酒後露真情。何清不篤同胞義，觀察安知衆賊名。(18・257)

15. 勤勞（よく働く）

盧俊義道：自從梁山泊歸順宋朝已來，北破遼兵，南征方臘，勤勞不易，邊塞苦楚，弟兄殞折，幸存我一家二人性命。(119・1792)

16. 認真

『現漢』には(1)「真に受ける」(動詞)(2)「真剣である」という意味があげられているが、『水滸』でも同様の意味で用いられている。

(1) 真に受ける

洪教頭道：大官人只因好習槍棒上頭，往往流配軍人，都來倚草附木，皆道我是槍棒教師，來投莊上，誘些酒食錢米。大官人如何忒認真。(9・140)

這販棗子的客人勸道：你這個鳥漢子，他也說得差了，你也忒認真，連累我們也喫你說了幾聲。(16・235)

(2) 真剣である

那些擲色的，在那里呼么喝六，擲錢的在那里喚字叫背，或夾笑帶罵，或認真廝打。(104・1592)

一箇是失節村姑，一箇是行凶軍犯。臉皮都是三尺厚，脚板一般十寸長。這箇認真氣喘聲嘶，却似牛駒柳影；那箇假做言嬌語澀，渾如鶯囀花間。(104・1598)

那挑酒的漢子便道：賣一桶與你不爭，只是被他們說的不好。又沒碗瓢舀喫。那七人道：你這漢子忒認真，便說了一聲打甚麼不緊。我們自有椰瓢在這里。(16・234)

17. 威風

『現漢』には(1)「(人を圧倒する)威嚴、威風」(名詞)(2)「威嚴がある」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の意味で用いられている。

陳達叫將起來，說道：你兩個閉了鳥嘴！長別人志氣，滅自己威風。他只是一個人，須不三頭六臂，我不信。(2・28)

楊志看那人時，身材凜凜，七尺以上長短，面圓耳大，唇闊口方，腮邊一部落腮鬚鬚，威風凜凜，相貌堂堂，（13・189）

一雙眼光射寒星，兩彎眉渾如刷漆。胸脯橫闊，有萬夫難敵之威風；（23・340）

18. 性急（せっかちである）

李小二道：你不省得，林教頭是個性急的人。摸不着便要殺人放火。（10・151）

李逵性急，見不搬麵來，叫一聲：過賣！罵道：却教老爺等了這半日！（53・878）

吳用諫道：仁兄不可性急，已死者皆是天命。若要取關，不可造次。（116・1747）

19. 凶惡（凶悪である）

這幾時，官司如何不行移文書到那里了？必然原籍追捕。你又形貌凶惡，倘有疏失，路程遙遠，如何得知？（42・684）

裏面太公張時，看見李逵生得凶惡，暗地教人出來接納，請去廳外側首，有間耳房，叫他兩箇安歇。（73・1230）

煙迷綠樹林邊，擺着幾行爭食鬼。人人凶惡，個個猙獰。（5・84）

20. 嚴肅

『現漢』には（1）「（表情や雰囲気人が人を恐れさせるように）厳しい」（2）「（やり方や態度が）厳しい」（3）「厳しくする」（動詞）という意味があげられているが、『水滸』では（2）の意味で用いられている。

有詩爲證：克減官人不自羞，被人刀砍一身体。宋江軍令多嚴肅，流淚軍前斬卒頭。（83・1373）

鎮殿將軍，長長大大甲披金，侍朝勳衛齊齊整整刀晃銀。嚴嚴肅肅，殿門內擺列着糾儀禦史官；端端正正，姜擦邊立站定近侍錦衣人。（82・1358）

21. 勇敢（勇敢である）

宋江與吳用連忙拆開觀看，書中說：抱攢山寨主唐斌，原是蒲東軍官，爲人勇敢剛直，素與關某結義。（94・1509）

又選勇敢輕捷之士，用飛橋轉關轆問輻，越溝塹，渡池濠。軍士一齊奮勇登城。（105・1606）

22. 踴躍

『現漢』には（1）「飛び上がる」（動詞）（2）「（熱烈で先を争い）意気込んでいる」という意味があげられているが、『水滸』では（1）の意味で用いられている。

西北上來的番軍，刺斜里又殺將來，對陣的大隊番軍，山倒也似踴躍將來。（84・1387）

只見那人挺着朴刀，大叫如雷喝道：潑賊，殺不盡的強徒！將俺行李那里去！酒家正要捉你，這廝們到來拔虎鬚！飛也似踴躍將來。(11・171)

忽聞一聲霹靂響，山腰飛出獸中王。昂頭踴躍逞牙爪，谷口麋鹿皆奔忙。(23・347)

23. 有名（有名である）

有分教：到那里斷送了十餘條性命生靈，一把火燒了有名的靈山古跡。直教黃金殿上生紅焰，碧玉堂前起黑煙。(5・91)

那人夫妻兩箇，亦是江湖上好漢有名的，都叫他做菜園子張青，其妻母夜叉孫二娘，甚是好義氣。(17・244)

他父親歿了三四年，江湖上前輩綠林中有名，他的父親喚做山夜叉孫元。(27・430)

24. 愚蠢（愚かである）

楊雄道：兄弟，你休怪我。是我一時愚蠢不是了！酒後失言，反被那婆娘瞞過了，怪兄弟相鬧不得。(46・760)

戴宗告道：真人不知，這李逵雖然愚蠢，不省理法，也有些小好處。(53・887)

盧俊義道：小人一時愚蠢，被梁山泊吳用，假做賣卦先生來家，口出訛言，扇惑良心，…(62・1047)

25. 自覺

『現漢』には(1)「自分で感じる」(動詞)(2)「自覚的な」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の意味で用いられている。

那婦人自覺這句話說錯，將紗衫袖兒掩着口笑。(102・1574)

盧俊義自覺失言，不敢回話。(110・1658)

C. 『水滸』にないもの

卑鄙（いやしい）殘酷（殘酷である）誠懇（心がこもっている）粗魯（そそっかしい）呆板（生気がない）膽小（気が小さい）大方（おっとりしている）腐化（腐敗している）幹脆（あっさりしている）規矩（きちんとしている）固執（がんこである）滑頭（ずるい）活潑（活発である）堅決（断固としている）堅強（強固である）驕傲（誇り高い）緊張（緊張している）精明（頭がいい）激烈（はげしい）可愛（かわいい）可怕（こわい）客氣（礼儀正しい）懶惰（怠けている）冷靜（冷静である）靈便（きびきびしている）靈活（敏捷である）麻痺（麻痺する）馬虎（いい加減である）羅嗦（煩わしい）冒失（そそっかしい）敏捷（敏捷である）努力（努力家である）疲塌（ぐったりしている）樸素（素朴である）謙虛（ひかえめである）起勁兒（興じる）勤快（勤勉である）熱情（心がこもっている）熱烈（熱がこもっている）

る) 熟練(熟練している) 爽直(率直である) 塌實(着実である) 外行(素人である) 頑固(頑固である) 頑強(頑強である) 偉大(偉大である) 溫和(穏やかである) 文明(教養がある) 小氣(みみっちい) 虚心(謙虚である) 嚴格(嚴格である) 嚴厲(厳しい) 野蠻(野蛮である) 陰險(陰險である) 愚笨(頭が悪い) 周到(行き届いている) 主動(自発的である) 自大(尊大である) 自動(自動の) 自滿(うぬぼれる) 自私(利己的である)

6. 人の感情や思想を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 慚愧

『現漢』には(1)「(自分に欠点があり間違いを犯したりして) 恥ずかしい」という意味があげられているが、『水滸』にはそのような用法はなく、「幸運である、よかった」という意味で用いられている。

太尉方才爬得起來，說道：慚愧！驚殺下官！(1・6)

忽一日天色將晚，王進挑着擔兒，跟在娘的馬後，口裏與母親說道：天可憐見，慚愧了！我子母兩個，脫了這天羅地網之厄。(2・21)

光着眼，都面面厮覷，麻木了動彈不得。酒店里那人道：慚愧！好幾日沒買賣，今日天送這三頭行貨來與我。(36・569)

小校用手指道：好了，兀的不是一個人來！林冲看時，叫聲：慚愧！只見那個人遠遠在山坡下大步行來。(11・171)

2. 煩惱

『現漢』には「悩む」という意味があげられているが、『水滸』では(1)のほか「悩み」(名詞)の意味で用いられている。

(1) 悩む

太公道：既然如此，客人休要煩惱。教你老母且在老夫莊上住幾日。(2・23)

只是我家今夜小女招夫，以此煩惱。(5・83)

心中煩惱了一回，在客店里又住幾日，盤纏都使盡了。(12・179)

李逵道：今番且除了一害，不煩惱公孫勝不去。(53・884)

(2) 悩み

何濤聽了，當初只有三分煩惱，見說了這話，又添了五分煩惱。(17・249)

爹娘見了女子，十分歡喜，煩惱都沒了，盡來拜謝兩位頭領。(73・1236)

3. 快活

『現漢』には(1)「愉快である、楽しい」という意味があげられているが、『水滸』では(1)「楽しい、気持ちがよい」(2)「楽しみ」(名詞)の意味で用いられている。

(1) 楽しい、気持ちがよい

朱武道：哥哥便只在此間做個寨主，却不快活。雖然寨小，不堪歇馬。(3・45)

莊家們都動彈不得，被林冲趕打一頓，都走了。林冲道：都走了，老爺快活喫酒。(10・157)

他得財寶，自去山寨裏快活，如何拏的着？便是知道，也只看得他一看。(17・249)

(2) 楽しみ

費保道：容覆，若是我四個要做官時，方臘手下，也得個統制，做了多時。所以不願爲官，只求快活。(113・1699)

如今欲要請你們去商議，聚幾個好漢，向山凹僻靜去處，取此一套富貴不義之財，大家圖個一世快活。(15・219)

4. 快樂

『現漢』には(1)「楽しい」という意味があげられているが、『水滸』では(1)のほか「楽しみ」(名詞)という意味で用いられている。

(1) 楽しい

如何敢小覷我，不伏俺點視！你托誰的勢要，推病在家安閑快樂！(2・20)

小可宋江，自蒙救護上山，到此連日飲宴，甚是快樂。(42・673)

這里宋江與晁蓋在寨中每日筵席，飲酒快樂，與吳學究看習天書。(43・692)

我的哥哥又在別人家做長工，如何養得我娘快樂？(42・684)

(2) 楽しみ

我今去尋師父，也要那里討個出身，求半世快樂。(3・45)

只思當日同歡慶，豈想蕭牆有禍憂！貪快樂，恣優游，英雄壯士報冤讐。請看褒姒幽王事，血染龍泉是盡頭。(26・407)

如此豪傑，流落在此賣柴，怎能勾發跡？不若挺身江湖上去，做箇下半世快樂也好。(44・720)

5. 美滿

『現漢』には「すばらしくて円満である」という意味があげられているが、『水滸』では「やさしくて十分である」という意味で用いられている。用例は1例のみ。

有詩爲證：不見芳卿十日余，朕心眷戀又踟躕。今宵得遂風流興，美滿恩情錦不如。(120・1814)

B. 『現漢』と同じもの

1. 悲哀 (悲しい)

詞中之意，甚有悲哀憂戚之思，宋江心中，鬱鬱不樂。(110・1650)

2. 滿意 (満足する)

今日天使相會，真乃稱心滿意。(32・504)

王矮虎一時被宋江以禮義縛了，雖不滿意，敢怒而不敢言。只得陪笑，自同宋江在山寨中喫筵席。(32・506)

賢弟你留在身邊，久後有損無益。宋江日後別娶一個好的，教賢弟滿意。(35・546)

3. 惱怒 (むっとする)

王慶又惱怒，又凄慘。(102・1578)

崔埜見砍了文仲容，十分惱怒，躍馬提刀，直搶縻勝。(106・1609)

帥府前軍士居民，都來看宋軍中人物，内中早惱怒了一箇真正有男子氣的須眉丈夫。(108・1628)

C. 『水滸』にないもの

暢快 (気分がよい) 倒黴 (運が悪い) 丟人 (恥をかく) 高興 (楽しい) 害羞 (恥ずかしい) 好玩兒 (おもしろい) 歡喜 (楽しい) 苦悶 (心を悩ます) 滿足 (満足している) 沒法 (処置なしだ) 耐心 (我慢づよい) 難過 (悲しい) 難受 (苦しい) 親熱 (親しい) 熱愛 (親しい) 熱心 (熱心である) 上當 (ペテンにかかる) 討厭 (いやらしい) 痛苦 (苦痛である) 痛快 (痛快である) 興奮 (興奮している) 憂愁 (憂えている) 友好 (友好的である) 愉快 (愉快である) 冤枉 (無念である)

7. 社会状況を形容するもの

A. 『現漢』と異なるもの

1. 保守

『現漢』には (1)「(なくならないように) 守る」(動詞) (2)「保守的である」という意味があげられているが、『水滸』ではそのような用法はなく、次のように「(警護のために) 守る」という意味で用いられている。

晁蓋忿怒，便點起五千人馬，請啓二十個頭領相助下山。其餘都和宋公明保守山寨。(60・

1006)

那十個統制官都望城門裏退入去，保守家眷。(111・1674)

畢都統保守樞相在山頭，鄧美殺開條路，取那枝軍馬來保護樞相出去。(77・1286)

2. 豐富

『現漢』には(1)「(物や富、経験などが)豊富である」(2)「豊富にする」(動詞)という意味があげられている。『水滸』では「多い」という意味で用いられている。

陳達道：蒲城縣人戶稀少，錢糧不多。不如只打華陰縣，那里人民豐富，錢糧廣有。(2・28)

若是不能相容，我等衆人自行告退。重蒙所賜白金，決不敢領。非敢自誇豐富，小可聊有些盤纏使用。速請納回厚禮，只此告別。(19・281)

3. 進步

『現漢』には(1)「進歩する」(動詞)(2)「進歩的である」という意味があげられているが、『水滸』ではこれらと全く違い(1)「歩を進める」(2)「出世する」という意味で用いられている。

(1) 歩を進める

吳用道：此計雖好，只恐這山險峻，難以進歩，倘或失脚，性命難保。(116・1746)

背後鄧美、畢勝趕來救應。又得唐州都監韓天麟、鄧州都監王義，四箇併力殺出核心。方纔進歩，喘息未定，只見前面塵起，叫殺連天。(77・1285)

事遇機關須進歩，人當得意便回頭。將軍戰馬今何在？野草閑花滿地愁。(3・43)

(2) 出世する

我自百無一能，雖有忠心，不能得進歩。(32・500)

B. 『現漢』と同じもの

1. 落後

『現漢』には(1)「(進んでいる中で)落後する」(2)「(仕事などで進度が)遅れる」(3)「(思想や道具などが)遅れている」という意味があげられているが、『水滸』では(1)の意味で用いられている。

那虞候道：不是我兩個要慢走，其實熱了行不動，因此落後。前日只是趁早涼走，如今怎地正熱里要行？正是好歹不均匀。(16・229)

2. 窮苦

『現漢』には(1)「清潔である」(2)「(動作や話し方が)さっぱりしている」(3)「残っていない」という意味があげられている。『水滸』では(1)の意味で用いられている。

次後，到一箇最深僻的山凹平曠處，方纔有幾家窮苦的村農。見了若干軍馬，都慌做一團。

(108・1623)

3. 自由

『現漢』には(1)「(法律上での)自由」(名詞)(2)「(哲学的な意味での)自由」(名詞)(3)「自由である」という意味があげられているが、『水滸』では(3)の意味で用いられている。

吳用回至中軍寨中來，與宋江閑話，計較軍情，便道：仁兄往常千自由，百自在，衆多弟兄亦皆快活。(110・1654)

詩曰：廊廟徽猷豈不周，山林却有過人謀。鳳無六翮難高舉，虎入深山得自由。(76・1263)

有詩爲證：避灾因作泰山游，暗裏機謀不自由。家產妻孥俱撇下，來吞水滸釣魚鉤。(61・1032)

C. 『水滸』にないもの

悲觀（悲觀的である）肥沃（肥沃である）繁榮（栄えている）反動（反動的である）富裕（裕福である）光榮（光栄である）和平（平和である）積極（積極的である）樂觀（樂觀的である）平等（平等である）強大（強大である）先進（先進的である）消極（消極的である）幸福（幸福である）優越（優れている）

参考文献

- 漢語大詞典 羅竹風 漢語大詞典出版社 1989年
近代漢語詞典 許少峰 團結出版社 1997年
近代漢語詞典 高文達 知識出版社 1992年
中國古典小說用語詞典 田宋堯 出版事業公司 民國74年
宋元語言詞典 龍潛安 上海辭書出版社 1985年
小說詞語匯釋 陸澹安 上海古籍出版社 1979年
現代漢語詞典（第5版）商務印書館 2005年
國語詞典（節本）臺灣商務印書館 民國58年
水滸全傳 鄭振鐸校訂 人民文學出版社 1954年
普通話三千常用詞表（增訂本）鄭林曦 文字改革出版社 1987年
中國語大辭典 大東文化大學中國語大辭典編纂室 角川書店 平成6年
水滸辭典 漢語大辭典出版社 1989年

『水滸』語彙と現代語 香版順一 光生館 1995年
完譯 水滸傳 吉川幸次郎・清水茂 岩波出版社 1995年

(2007年9月28日受理)